

2023年11月5日 召天者記念礼拝 式文

●『讚美歌 21』 4 6 3 番

1. わがゆくみち いついかに なるべきかは つゆしらねど しゅはみこころ なしたまわん
(くりかえし) そなえたもう しゅのみちを ふみてゆかん ひとすじに
2. わがこころよ つよくあれ ひとばかり よほうつれど しゅはみこころ なしたまわん
3. あらうみをも うちひらき すなはらにも まなをふらせ しゅはみこころ なしたまわん

●交読詩編 30編9～13節

司式 主よ、わたしはあなたを呼びます。

会衆 主に憐れみを乞います。

司式 わたしが死んで墓に下ることに／何の益があるでしょう。

会衆 塵があなたに感謝をささげ／あなたのまことを告げ知らせるでしょうか。

司式 主よ、耳を傾け、憐れんでください。

会衆 主よ、わたしの助けとなってください。

司式 あなたはわたしの嘆きを踊りに変え／

会衆 粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました。

司式 わたしの魂があなたをほめ歌い／沈黙することのないようにしてくださいました。

一同 **わたしの神、主よ／とこしえにあなたに感謝をささげます。**



●『讚美歌 21』 2 9 4 番

1. 人よながつみの大いなるをなげき悔いて涙せよ このゆえキリスト父のもとをさりこの世にきましぬ
死にたるを生かし病を取り去りついに時いたり 人の罪のため 十字架のあがない 終えさせたまいぬ
2. されば感謝もてみ傷あおぎつつみむねに従わん 罪をあだとなし御言葉に立ちて夜昼たたかわん
深き嘆きもて主のたてたまいし愛を世に示し 人よこころしてみ神の怒りを恐れつつ歩まん

●『讚美歌 21』 3 8 5 番

1. 花いろどる春を この友は生きた いのちみたす愛を 歌いつつ
悩みつまずくとき この友の歌が 私を連れ戻す 主の道へ
2. 緑もえる夏を この友は生きた いのち活かす道を 求めつつ
悩みつまずくとき この友の姿 私をふりかえる 主の道で
3. 色づきゆく秋を この友は生きた いのちひとのために 燃やしつつ
悩みつまずくとき この友は示す 歩み続けてきた 主の道を
4. 雪輝く冬を この友は生きた いのちあたためつつ やすらかに
この日、目を閉じれば 思い浮かぶのは この友を包んだ 主の光



●『讚美歌 2 1』 2 4 番

たたえよ主の民 みつかいと共に 恵みにあふれる 父・子・聖霊を アーメン

●『創世記』 3章 1～15 節

1 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」2 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。3 でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」4 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。5 それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」6 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。7 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。8 その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、9 主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」10 彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」11 神は言われた。「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」12 アダムは答えた。「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」13 主なる神は女に向かって言われた。「何ということをしたのか。」女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」14 主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は／あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で／呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に／わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き／お前は彼のかかとを砕く。」

●『ヨハネによる福音書』 3章 1 3～2 1 節

13 天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもない。14 そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。15 それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。17 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。18 御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。19 光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。20 悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。21 しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために。」

